

No.18
2015.3

林木ジーンバンク事業の新たな展開

遺伝資源部長

生方 正俊

林木ジーンバンク事業は、1985年に農林水産省ジーンバンク事業の林木遺伝資源部門の発足からスタートし、利用上の重要度や保存の必要性・優先度を勘案して、主に育種素材の確保と絶滅危惧種等の保全を目標として進めてまいりました。しかし、事業開始から約30年が経過し、林木育種事業の次世代化の推進、バイオリソース（生物遺伝資源）の整備、絶滅に瀕する遺伝資源の保全等、林木ジーンバンク事業のより一層の戦略的な展開が求められています。

このため、平成26年2月から10月にかけて、今後の林木ジーンバンク事業の進め方について、有識者等による検討会（「林木ジーンバンク事業収集・保存、特性評価戦略検討会」）を設置し、多岐にわたる林木遺伝資源のより一層の効率的な収集・保存等を進めるための課題を検討していただきました。

この検討会では、林木ジーンバンク事業の30年間の経緯、成果、問題点等から今後必要とされている役割や事業内容等について幅広く議論していただき、その結果を「林木ジーンバンク事業の方針」としてまとめさせていただくことができました。

この方針では、遺伝資源の持つ情報（生育地、生育状況、各種特性等）の収集の重要性を示すとともに、効率的かつ効果的に事業を推進するためには、林木遺伝資源の顕在・潜在ニーズを収集・分析しつつ、重要性、将来性、滅失の危険性、増殖性等を勘案したうえで、実際に遺伝資源を収集、増殖・保存するものと「情報」の収集に重点をおくものに分ける必要性を示しています。さらに、林木ジーンバンク事業の重点課題として、①主要樹種の育種素材の補完 ー林木育種を支える基盤の整備ー、②有用樹種の新需要の創出への貢献 ー遺伝資源の充実と活用の強化ー、③脆弱な希少遺伝資源の保全、④遺伝資源情報のネットワーク化、の4点を掲げています。今後、この方針に従って事業を展開し、得られた成果を迅速に社会に還元して、より社会に役立つ事業にしていきたいと考えています。

なお、この方針等は、森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部のホームページ (<http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html>) に掲載しています。関心のある方は是非一度ご覧いただきたいと思います。

【紙面紹介】

アカマツにおける地域固有の遺伝変異の評価	2	木質の構造と遺伝子（2）	7
特定母樹の普及状況について	3	平成26年度林木育種成果発表会を開催	8
平成26年度に開発した新品種	4	第4回林木育種技術戦略委員会を開催	8
イジュの開花期間と人工交配の取組	6	植物紹介「クロボウモドキ」	8

